

# もも管理特報 No.6

令和2年7月22日  
みな穂もも振興会  
みな穂農業協同組合  
新川農林振興センター

## 1. 生育状況

### 1)「あかつき」の肥大状況(7月20日時点、満開104日後)

- 果実の横径は、77.5mm で平年に比べやや小さい(果樹研究センター測定値)。

## 2. 病虫害防除

### <発生状況>

- せん孔細菌病の発生は、梅雨期間中に増加しているものの全体として少ない。
- 灰星病、ホモプシス腐敗病の罹病果実の発生は、少なく平年並み。
- 果樹カメムシ類のフェロモントラップへの誘殺は、平年よりも多い。

### <防除のポイント>

- 収穫期に入っている品種があるので、収穫前日数等の農薬使用基準を遵守する。
- 「あかつき」以降の品種に対する灰星病対策として、収穫期前が多雨多湿の場合、除袋後にロブラール水和剤(1,000倍、収穫前日まで、3回以内)又はロブラール500アクア(1,000倍、収穫前日まで、3回以内)の特別散布を実施する。
- カメムシ類の飛来が日中の園地で確認される場合は、モスピラン顆粒水和剤(4,000倍、収穫前日まで、3回以内)の特別散布を実施する。
- 収穫期間中、高温乾燥状態が続くとハダニ類の発生が懸念される。ハダニ類の発生が認められた場合は、マイトコーネフロアブル(1,500倍、収穫前日まで、1回)を単用散布する。

回数	散布時期の目安	対象病害虫	薬剤名と希釈倍率		100% 当たり 薬剤量	散布量 (%/10a)	防除実施日 (自己記入)
特散	7月末 ~8月上旬 (中晩生品種 除袋後)	灰星病	ロブラール水和剤 または ロブラール500アクア (いずれも収穫前日まで) (展着剤 マイリノー)	1,000倍 1,000倍 20,000倍	100g 100cc 5cc	400	
特散	<u>カメムシ類</u> 発生時	カメムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ コガネムシ類成虫	モスピラン顆粒水溶剤 (収穫前日まで)	4,000倍	25g	400	
特散	<u>ハダニ類</u> 発生時	ハダニ類	マイトコーネフロアブル (収穫前日まで)	1,500倍	66cc	400	
13	8/25 ~28頃 (収穫終了後)	モモハモグリガ、 シンクイムシ類、 カイガラムシ類	スプラサイド水和剤 (展着剤 マイリノー)	1,500倍 20,000倍	66g 5cc	400	

### 3. 収穫

#### <ポイント>

- 向こう1か月（7月18日～8月17日）の期間の前半は、降水量が多く、日照時間が少ない状態が続く見込みで、平均気温は平年並み、降水量は平年並み～多い、日照時間は少ないと予想されている。
- 本年のように降水量が多く、日照時間が少ない場合、果肉が軟化しやすく着色しにくい傾向がある。着色よりも地色の抜け等で収穫適期を判断し、収穫遅れとならないよう注意する。
- また、大雨により急激に成熟が進み、一斉に収穫時期を迎える場合がある。樹、品種ごとの成熟状況をこまめに確認し、適期収穫に努める。
- 今後もしばらくは日照時間が少ないと予想されていることから、反射シートの設置や支柱立て等で受光を改善し、果実の着色促進を図る。
- 収穫の適期は、園地や樹勢、気象条件によって異なる。各自、品種ごとに試し採りして、早採りや採り遅れにならないように注意する。
- 収穫期間中も、次の収穫予定品種の成熟をこまめに確認し、除袋・破袋作業、反射シートの敷設、灰星病の薬剤散布を遅れないように進める。

#### 1) 収穫適期の判定

- 果実の色（地色）、形や硬さ、食味などを総合的に判断し、適期収穫に努める。

「収穫適期判定のポイント」

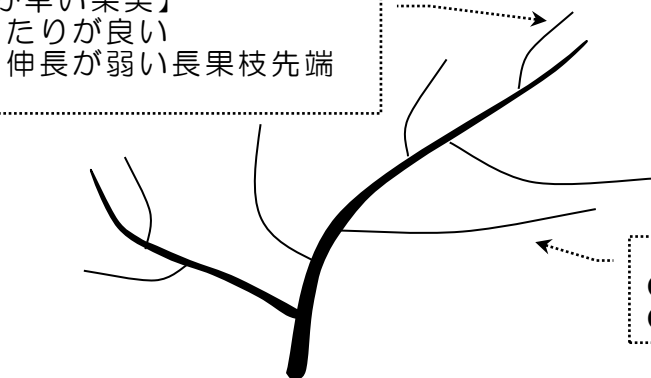
1. 果実は主枝や亜主枝の先端部の日当たりの良い場所から成熟する。
2. 果実は収穫前に急激に大きくなる。
3. 収穫適期の果実は、果皮の地色の緑色が抜け、淡い黄緑色～白色になる。  
また、果形が丸く、果頂部が凹み、果皮表面の毛が柔らかくなる。
4. 必ず、試食して食味を確かめる。

#### (1) 成熟が早い部位

- 主枝亜主枝の先端部の日当たりの良い部分から収穫に入る。

【熟期が早い果実】

- 日当たりが良い
- 新梢伸長が弱い長果枝先端



【熟期が遅い果実】

- 日当たりが悪い
- 長大な長果枝に着果

## (2) 収穫適期の判定

### ① 地色（着色していない部分の色）

- ・ 果梗部（軸の部分）等、着色していない部分の緑色が抜けて、淡い黄緑緑色～白色となった頃が収穫の目安。
- ・ 果梗の部分が見つらい場合は、果実全体の着色していない部分の地色で判断する。



### ② 大きさと果実の形

- ・ 果頂部から見た果形が丸く、果頂部も凹んだもの（ももは収穫前に急激に肥大する）



未熟（小さく尖る）



適熟（丸く、果頂部が凹む）

### ③ 果実の硬さ

- ・ 果梗部周辺の肩部分から熟すので、肩部分の軟化程度を基準に判断する。
- ・ 果実全体を手の平で軽く触れ、かすかな弾力を感じる程度が適熟。
- ・ 果肉硬度2kg程度が収穫の目安。

※ 生理障害果（みつ症、水浸果）は、果肉硬度2kgを下回ると発生が多くなる（果肉硬度はユニバーサル果実硬度計（円錐柱頭）で測定）

### ④ 食味

- ・ 核割れしていない正常な果実を試し採りし、糖度等の食味を確認する。

### ⑤ その他

- ・ 着色よりも地色の抜け、果肉硬度などを総合的に判断する。
- ・ 「長沢白鳳」は、着色が先行することから早採りに注意する。
- ・ 果実表面の毛が、手で触って立っている（ザラザラする）場合は未熟な果実。

## 4. 収穫方法

### 1) 収穫に適した時刻

- ・ 果実温度の低いうちに収穫する。収穫後は日陰の涼しい場所に果実を置く。

### 2) 収穫の仕方

- ・ 果頂部に手のひらをあて、指先は果梗部近くの肩にかけて、軸が抜けないように親指をテコにして収穫する。
- ・ 8～10kg入りの平箱を使用し、緩衝材などを敷いて、果実をていねいに扱う。地面に果実や収穫コンテナが直接触れないように留意する。



#### ☆効率的な収穫のポイント☆

- ・ 人手がある場合は、2人1組になって収穫を進める（収穫する人と、収穫者から果実を受け取り、1次選果、コンテナ詰めする人）。

**☆ももは枝から離れた瞬間から「食品」です！清潔な取り扱いに留意しましょう！！**

### 3) 農作業安全

- ・ 十分な睡眠をとり、疲労が蓄積しないよう、体調管理に留意する。
- ・ 収穫時に脚立を使う場合は、開脚防止チェーンをかけ、安定した場所に設置し、天板には乗らず、こまめに脚立を動かし身を乗り出さずに使用する。
- ・ できるだけ気温の高い時間帯を避けて作業する。
- ・ 気温、湿度が高い中でマスクを着用すると、熱中症のリスクが高まるため、屋外の作業で人と十分な距離（少なくとも2m以上）が確保できる場合には、マスクをはずす。
- ・ マスクを着用している場合には、強い負荷の作業は避け、のどが渇いていなくてもこまめに水分補給を心掛ける。汗を大量にかいた際には塩分の補給もあわせて行う。
- ・ 体調確認や3密（密閉、密集、密接）防止など、新型コロナウイルス感染対策を実施する。
- ・ 出荷調整などの室内作業時は、定期的に換気を実施し、隣の人との距離をとりながら、会話等は必要最小限にとどめる。

## ○収穫中 ももの作業チェック表

作業内容	作業のポイント	実施適期	実施予定日 (自己記入)	実施日 (自己記入)
薬剤散布	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 散布ムラが生じないように丁寧に散布する</li> <li>・ 散布間隔が10日以上あかないように注意する</li> <li>・ 散布予定日が降雨の予報である場合は、前倒しで実施する</li> </ul>	2. 害虫防除参照		
灰星病罹病果の切除	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 罹病果実は枝ごと切除し、園地外で処分する</li> <li>・ 罹病果実・枝を触った手で他の健全な果実を触らない</li> </ul>	随時		
着色管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新梢管理、枝つり、支柱入れを実施し、樹冠内部まで光が届くようにする</li> <li>・ 除袋・破袋し、反射シート等も利用して着色を向上させる</li> </ul>	着色管理		
収穫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 果実の色（地色）、形や硬さ、食味などを総合的に判断し、適期収穫に努める</li> </ul>	3. 収穫参照		
農作業安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収穫時の脚立や高所作業車からの転落事故に注意する</li> <li>・ こまめな休憩や水分補給など熱中症に注意する</li> <li>・ 体調確認や3密防止など、新型コロナウイルス感染対策を実施する</li> </ul>	4. (3) 農作業安全参照		